

当別町 140 年特別企画

第11話 学び舎の今昔物語

町内の学校の変遷と校章に託された想い

資料：当別町立小中学校校章（教育委員会所蔵）

作成者 亦野信晴氏（昭和 55 年 1 月製作 第 9 代中小屋中学校長）



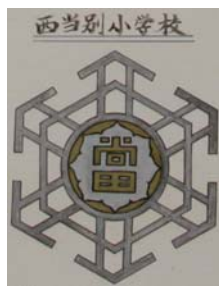
創立開校 明治 6 年 5 月 20 日
校章制定 昭和 36 年 4 月 1 日

中央に当別小の文字、3つの輪は考える（智）、明るい（徳）、元氣な（体）の調和を表す。



創立開校 明治 25 年 5 月 1 日
校章制定 昭和 6 年 7 月 30 日

雪の結晶、中央に辨の文字、北国の風土に耐え、ねばり強くたくましい郷土を表す。



創立開校 昭和 26 年 8 月 1 日
校章制定 昭和 26 年 12 月 10 日

雪の如く清らかに、鏡のようにくもりなき心身の発達成長を願う。



創立開校 明治 34 年 3 月 20 日
校章制定 昭和 27 年 7 月 1 日

靑山の山を三角形に形どり頭文字 A を配し、ペンが高い知性と創造を表す。



創立開校 明治 33 年 2 月 20 日
校章制定 昭和 27 年 11 月 3 日

全体を八角形で表し、中央部に星と中をあしらう中コが八つで中小屋を表す。



創立開校 明治 35 年 1 月 7 日
校章制定 昭和 27 年 10 月 19 日

昇る朝日に黄金の稲穂が照り映える。東夷の村づくりは人づくりを表す。



創立開校 明治 37 年 3 月 27 日
校章制定 昭和 25 年 5 月 5 日

ペンは知識、三つの穂は誠実・勤労・健康、稲穂は農村、円内は川を示す。



創立開校 明治 44 年 4 月 15 日
校章制定 昭和 33 年 12 月 20 日

学校をワラビの葉で囲み、三方にローマ字の W（蕨岱の頭文字）を配する。



創立開校 明治 32 年 9 月 2 日
校章制定 昭和 34 年 3 月 10 日

地域を雪の結晶の六角形で表し、各頂点に金の文字を配置。



創立開校 明治 34 年 1 月 15 日
校章制定 昭和 28 年 9 月 16 日

校名の高を中心に、地域内 6 つの班を当の 6 文字と、まわりの葉はジャガイモを表す。



創立開校 昭和 22 年 5 月 1 日
校章制定 昭和 22 年 11 月 1 日

当の大文字で囲み全体を雪の結晶とし、たくましく生きる力を表す。



創立開校 昭和 22 年 5 月 1 日
校章制定 昭和 22 年 5 月 20 日

雪の結晶に弁華別の弁を図案化してペンと地域性を象徴。



創立開校 昭和 22 年 5 月 4 日
校章制定 昭和 22 年 9 月 1 日

六角形の雪の結晶に西当の文字を図案化し、中の字のまわりに配する。



創立開校 昭和 22 年 5 月 1 日
校章制定 昭和 27 年 7 月 1 日

靑山の山を三角形に形どり頭文字 A を配し、ペンが高い知性と創造を表す。



創立開校 昭和 22 年 5 月 1 日
校章制定 昭和 53 年 4 月 1 日

六角は雪、上下の線はペン、真ん中は中小屋の中、星は北極星を表す。

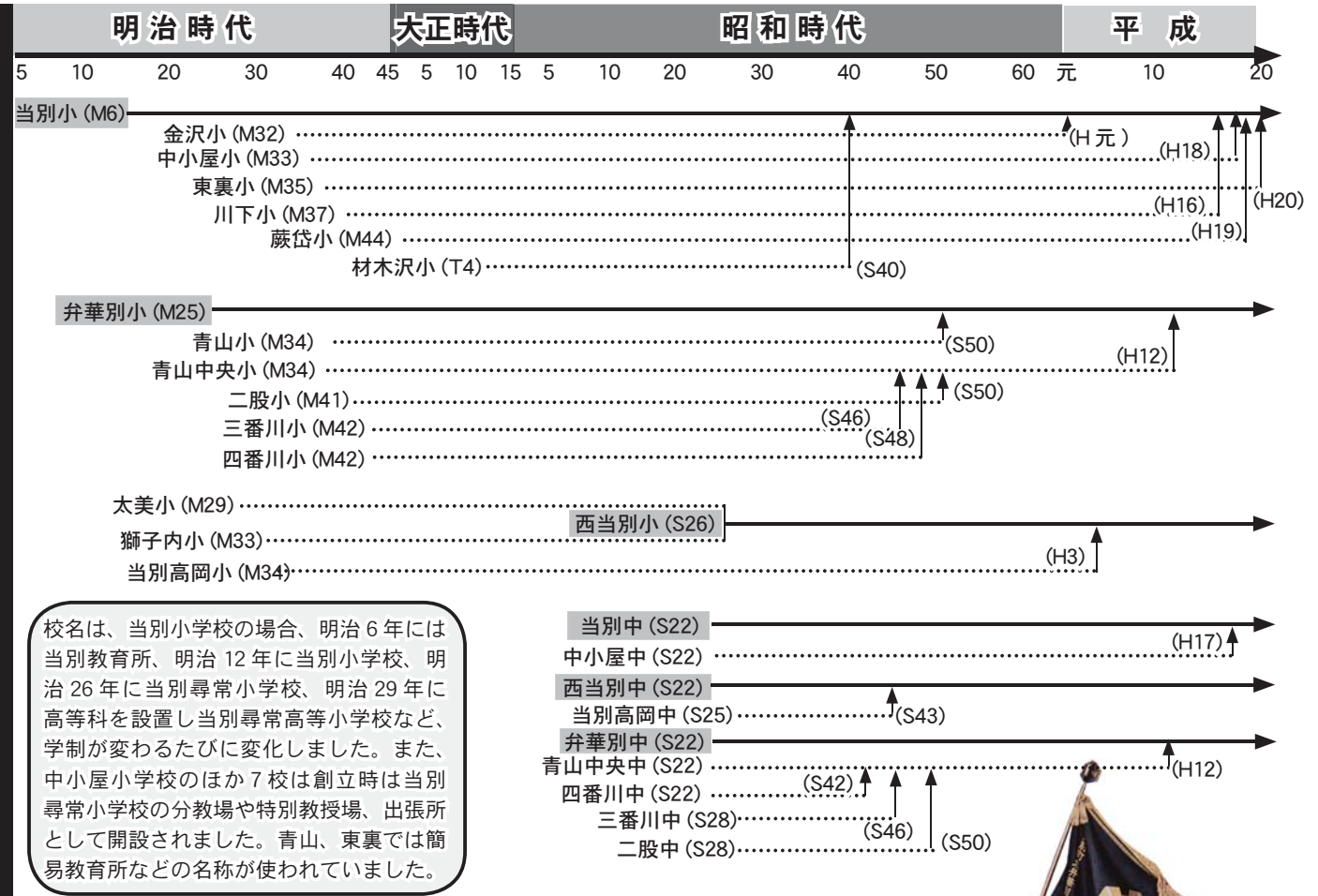
① 校章に見る特徴

上の校章は昭和 55 年当時に存在した小・中学校 15 校（閉校を含む）のものです。一見して雪の結晶をイメージした校章や、農村らしく稲やジャガイモ、ワラビなど植物を配置したり、漢字の図案化により作られています。校章の制定が一番古いと思われる弁華

別小学校の辨の字は旧字体、少し変わったところでは、中小屋小学校と中小屋中学校では中央にどちらも中の字がありますが、後に小中学校は小の文字に変更していません。この他の学校にも校章は存在したと思われませんが、記録はありません。なお、当別小学校には旧

校章があり、稲穂をモチーフにしたものが古くから使われていました。昭和 34 年頃、教師により一部手直しされたものの、誰でも描けるデザインが良いと、昭和 35 年に一般公募を行い採用されたのが現在の校章ですが、製作者は不明です。

小学校、中学校の系譜



校名は、当別小学校の場合、明治6年には当別教育所、明治12年に当別小学校、明治26年に当別尋常小学校、明治29年に高等科を設置し当別尋常高等小学校など、学制が変わるたびに変化しました。また、中小屋小学校のほか7校は創立時は当別尋常小学校の分教場や特別教授場、出張所として開設されました。青山、東裏では簡易教育所などの名称が使われていました。

② 学校の統廃合

明治末期には農地は青山奥に及び、開拓者の入植に伴い学校の設立が進み、太平洋戦争後の昭和20年代後半にも緊急入植で生徒数が増加しました。しかし、自然環境が厳しく、三番川小中学校では青山ダムの建設による移転、その後の不作続きで昭和46年全ての農家の離農移転により閉校となりました。この昭和40年代から日本は高度成長期に入り、都会や

工場での労働力の必要性から奥地に入植した農家、開拓者も次第に転出していくようになり、昭和50年までに小・中学校合わせて9校が統廃合となりました。その後に残った市街地周辺地域の学校も児童・生徒の減少などの理由から現在は小・中学校は6校となっています。

このように町内の小・中学校は、その時代の社会、経済状況により統廃合を繰り返してきました。しかし、それぞれの学校の校章には、地域の教育にかける理想や思いが込められていました。学校は現在も地域の文化の象徴であるばかりでなく、卒業生にとって心のよりどころといえるでしょう。



■参考文献
 当別町史 (1972)
 当別小学校開校120周年記念誌 (1992)
 川下小学校100年閉校記念誌 (2003)
 弁華別小学校開校100周年記念誌 (1992)
 高岡小学校開校90周年閉校記念誌 (1991)
 ■情報課広報広聴係
 ☎ 23 - 3069